

日本地球電気磁気学会会報 (第36号)

1968年11月25日

日本地球電気磁気学会

事務所 東京都文京区弥生2丁目11の16 郵便番号113

東京大学理学部地球物理学教室内

電話 03-812-2111 内線 6476

振替 東京 4860番

第44回総会並びに講演会後記

第44回日本地球電気磁気学会総会並びに講演会は、10月30日から11月2日迄の4日間秋晴れの好天の下東北大学理学部地球物理学教室のお世話により予定通り開催されました。紅葉と菊の花に囲まれた東北大学川内記念講堂松下会館の会議室を会場として講演会が開かれ、加藤愛雄大会委員長をはじめ、東北大学の皆様方の行届いたお世話により快い4日間を過ごさせて頂きました。

総計121編の一般講演のお申し込みがあり、3日間は2つの会場に分れて講演が行われました。若干の取消しがあり実際には114編の講演が行われ多くの参会者によって活発な討論が行われました。

3日目の11月1日午後には特別講演として

東北大学理学部山本義一教授が「GARPについて」

電波研究所羽倉幸雄会員が「太陽高エネルギー粒子とPCA」

と題して夫々大変興味深いお話をして下さいました。山本教授は地球電気磁気学会とも関連深い地球高層大気の物理学の発展特に気象の数値予報、科学衛星による全世界の気象状態の観測等についての現状と全世界的な規模で計画が進められているGARP(Global Atmosphere Research Project)によって期待される成果について詳しいお話をして下さいました。

又羽倉会員は過去3 Solar cyclesの各種dataを総合して太陽から放出される高エネルギー粒子の性質とそれによって起されると考えられるPCA(Polar Cap Absorption)との関連、特にType IV Radio OutburstとPCA、SSC Stormとの密接な関係について詳しく話され更に最近いくつかの科学衛星による同時観測によって得られた興味ある現象を通じ惑星間空間で

の太陽高エネルギー粒子の伝播についてもお話をしておりました。

岡氏のお話は当学会の研究分野に密接に関連し今後数年間に亘り発展する問題を多く含んでおり会員の今後の研究にとって大きな示唆を与えて頂く事が出来たと存じます。夫及び、時間近くになり詳しいお話をさせて頂きました。岡氏に対し失礼ではございますが紙面をもってお礼申し上げます。

続いて開かれた総会では委員長の名指により加藤運運営委員が議長となり先ず加藤愛雄大会委員が歓迎の辞をのべられ学会前続いていた雨天が学会の開始と共に会員の精進がよかった故に好天に変わって快い気候の中で講演会が続けられ来春を以て東北大学を定年退職される先生にとって良い思い出となった事を話されました。ついて経過報告に入り庶務(新入会員、諸奨励金候補者推薦)会計、会誌(発行状況、欧文報告への会員名簿掲載)について担当の各運営委員から報告がありました。ついて長谷川記念杯の贈呈に移り、加藤愛雄会員に開戸委員長より長谷川記念杯、感謝状が贈呈されました。更に開戸委員長が先ず本会会員で特に地磁気、Aurora等の研究に多大の功績を残されたE. H. Vestine氏が本年7月18日、62才で亡くなられた事に対し弔意を表され、J. G. G.にObituaryを掲載する事と総会の名で弔辞を送る事を提案されました。ついて最近の日本での研究の発展、I. A. S. Y計画の進行、外圍大気研究センター設立の為の本学会の努力の模様を話されました。又今回の総会では田中館賢候補論文の推薦がなかった事に関し会員各位の研究水準が火いに向上している時にもっと多くの論文が田中館賢に値しているにも拘らず推薦がなかった事は残念であり今後各会員がこぞって推薦の労をとられる様望まれました。最後に今回の総会を以て本期の役員任期が終了し、今年末には委員長、来春早々役員選挙が行われる事をのべられ本学会会員の研究が地球外部、地球内部夫々の物理学の分野で平行して進められているにも拘らず今期の運営委員は殆んど地球外部物理学の研究者で占められていた事を指摘され前回の総会で報告された選挙内規の改正により今回の役員選挙からは研究分野別の選出が行われるのでこの点を会員諸氏が十分考慮された上投票される様望まれました。

次に委員長の依頼により立たれた永田武会員は最近の国際研究情勢、特に9~10月に開かれた2つのSymposium (Physics of Magnetosphere, Description of Earth's Magnetic Field)での詩題を話され、後者の研究分野でVestine会員の果された業績を讃えられ、総会で弔意を表するという委員長の提案を支持されました。又来年1月にはIUCSTPの初めての総会がLondonで開かれI. A. S. Yの計画が討議される予定である事を述べられまし

た。更に来年9月には、Madrid で IAGA の初めての General Scientific Assembly が開かれ多くの Symposium が開かれる事、これらの Symposium では最近急速に発展してきている分野のみならず、古くから取上げられた研究課題についても新しい研究方法、技術の採用によって更に大きな進展が報告されることを各会員に要望されました。

予定されていた議事に入る前に、議長は関戸委員長によって提案され永田会員によって支持された Vestine 会員に対して総会の名において弔意を表する事をはかり、総会出席者の承認を得ました。

次の議事として永田会員より本会名誉会員として萩原雄祐会員、Sydney Chapman 氏の両氏を推薦する事が提案され、当学会の研究分野全般に涉って両氏の果たされた指導的役割と多くの業績を称賛され当会の名誉会員として今後貢献して頂きたいと述べられました。この提案について採決の結果、総会出席満場一致で、萩原雄祐、Sydney Chapman 両氏を名誉会員として承認しました。なお運営委員会では両氏に対し名誉会員として今総会で承認された旨書面でお知らせする予定です。

次の議事としては前回の総会において提案され、会員の投票による小委員会が検討されて来た科研費問題がとり上げられました。先ず科研費問題は、委員会が半年の間に行ってきた資料の収集、問題点の解明等について、専任委員が総会席上配布された資料によって話されました。これらの資料についての討論の後、この問題について本学会の態度を公式に表明すべきかどうかをわかった結果、態度を正式に表明することとし、その声明文について小委員会が用意された案が提案されました。この案は小委員会が数回の会合を開いた結果小委員全員の一致した意見として作られたものであり、総会でも活発な討論がなされました。その結果永田会員、関戸会員の提案された若干の修正を含めて表決が行われ、出席会員殆んど全員の賛成によって別掲の声明文が可決されました。この声明文は運営委員会の手で各方面に送られ今後この問題に対する解決を促進する一助となる事と思われます。なお科研費問題小委員会は今後もそのまま存続し問題解決について努力して頂く事となりましたが、今総会への提案作成までの各委員の御努力について添甚々謝意を表すると共に今後の活動をお願い申し上げます。

最後に、次回総会、講演会について前田坦会員より、最近東京郊外に新築が完了した、理化学研究所にお世話で開催して頂いてはとの提案があり、その通り決定致しました。

これで議事を終り、議長の要請によって立てられた長谷川名誉委員長は今回

の総会の機会に念願の田中徳先生の墓参を果され感概を新らたにされた事
 諸学会賞に対して本学会会賞各社の独創的研究の成果をとしとし推薦、広
 学会に伝えるべきであると会員に訴えられました。次いで太田評議員が、
 員を代表してこの総会並びに講演会の一切のお世話を下さった加藤大
 委員長をはじめ東北大の方々に対して感謝の言葉を述べられ特に昼食券や
 店、交通の案内等細かい所まで心を配られた方をねぎらわれました。

総会終了後夕日を浴びての記念撮影の後これ又新趣向の会費タツタの30
 円(ビール、おつまみ、なめこ汁付)の懇親会に移り、売店のビール、ジ
 ース、おでん、菓物等を加えて盛沢山の御馳走に舌鼓をうち乍ら大いに会
 相互の親睦を深めました。以上のような経過で4日間の大会を大変円滑に
 実して終ることが出来ました事は、一重に大会をお世話して下さった加藤
 委員長を始め東北大学理学部の皆様方々の並々ならぬ御尽力の賜物であり
 の紙面をかりて厚くお礼申し上げます。

新 入 会 員

次の各氏が第43回総会以後10月30日迄に本学会に新らたに入会されました。

松 岡 猛	東大教授	伊勢崎 修 弘	東大理
西牟田 一 三	電波研	玉 生 志 郎	東北大理
新 妻 信 明	東北大理	永 野 宏	東大理
一之瀬 匡 興	信州大教授		

奨励金等応募者推薦について

下記の各奨励金募集の通知が学会事務所に参っております。これらの奨
 励金に応募されたい会員で当学会の推薦を受けたい方々は夫々所定の期日迄
 学会事務所宛必要事項を御記入の上お申込み下さい。なお関係書類必要の
 は学会事務所宛お越し下さればお送りします。

1. 東洋レーヨン科学技術助成金 1件 1,000万円程度
 応募締切 11月末日 推薦締切 11月23日
2. 朝日学術奨励金 1件 100万円程度
 応募締切 3月末日 推薦締切 2月末日

科研費問題に関する声明

第44回総会で次の声明文が採択され各方面に送付されました。

声 明

本学会は第43回総会の議により科研費問題小委員会を設けて文部省学術審議会の答申「科学研究費補助金の運用上の改善策」をその参考資料と共に慎重に審議しその報告を本学会第44回総会において討議した結果次の結論に達した。

文部省学術審議会の答申「科学研究費補助金の運用上の改善策」は科学研究費も経常研究費もその絶対量が不足している現実を無視して、我が国の科学研究振興に関する重大問題を、単に科研費運用上の問題に後小化して事を処理しようとするものであり、この様な局面的見地からは真の改善策が生まれてこないことは明らかである。我々はこのような観点から科研費問題解決に対する基本的態度として配分方式の改訂よりも、総額を大巾に拡大することが先ず急務であると考えた。

次に学術審議会の答申は、従来学術会議を中心として研究者の自主性に委ねられてきた科学研究費の配分を、実質的に文部省、学術審議会が行うことを示している。科学研究の持つ性格から観て、科学研究費は研究者の自主的な配分に任せられることが最も適切である。従来配分方式の基礎となっている原則を改変する必要を我々は認めない。

学術会議はその会員が科学者の間の選挙によって選ばれた民主的組織であり、科学者の総意を行政に反映させる機関として発定した。しかるに政府は自らの任命による科学技術会議並びに学術審議会を設け、学術会議の存在を軽視するに至ったことは極めて遺憾である。

更に学術審議会の科研費に関する答申が、学術会議との意見調整が不十分なままに出され、更に今年度の配分審査に関して文部省、学術審議会は、学術会議の関与せぬまま審査委員の選定を行い配分決定を強行した。文部省のこの様な行政行為は科学者の総意に反するものと考え、我々はこれに強く抗議するものである。

我々は、学術会議が我が国の科学者の総意を代表する唯一の民主的機関であることを確認し、学術会議が科研費問題に関してこれまでにとって来た態度を支持することをここに表明する。

1968年11月1日

日本地球電気磁気学会

学会委員長の選挙

今期学会役員の仕事は来年3月末を以て終了致しますので、先ず次の要領で学会委員長の改選を致します。期日迄にお忘れなく同封投票用紙を用いて御投票下さい。

1. 被選挙人 本学会正会員、但し規約第13条により現委員長
関戸瑞太郎氏を除く
2. 選挙人 本学会正会員
3. 投票方法 単記無記名
4. 投票期日 12月20日
5. 投票送先 東京都文京区弥生2丁目11の16(郵便番号113)
東京大学理学部地球物理学教室内
日本地球電気磁気学会事務局

本学会名誉会員

第44回総会において萩原雄祐、S. Chapman 両氏が本会名誉会員として承認されましたが本学会の名誉会員は下記の各氏です(ABC順)

Sydney Chapman	H.A.O. Boulder, Colorado, U.S.A.
萩原雄祐	東京大学理学部名誉教授
長谷川万吉	徳島大学学長、学士院会員
D. F. Martyn	Commonwealth Obs. Mt. Stromlo, Canberra Australia.

学会誌J.G.G論文執筆要綱の二、三の変更

先日配布されました会員名簿内の学会誌概要論文執筆要綱第7～8ページ §3.3 引用文献の書き方は、最近のJ.G.G.裏表紙内側の Information for Contributors の“例”のように多少変更されていますのでおしらせします。

総会並びに講演会経緯

本学会が創設されてから20有余年幾多の出来事がありましたが、この間に開かれた総会、講演会の開催地、日時、講演数等をまとめてみましたので、記録に留めるためここに印刷します。講演数の増加等に本学会の活動の成長ぶりが伺えます。又これを機会に講演会プログラムを学会事務所に保存する事を行なっています。

No.	開催機関	年月日	論文数	No.	開催機関	年月日	論文数
1	東大理	S.22. 5.12-14	34	2	京大理	S.22. 10.17-19	24
3	柿岡観測所	23. 6.5-7	40	4	気象研	23. 10.25-27	45
5	名大理	24. 5.9-11	61	6	東大理	24. 10.25-28	64
7	東大理	25. 5.22-24	54	8	東北大理	25. 10.8-10	54
9	中央電波観	26. 5.21-23	64	10	京大理	26. 10.21-23	54
11	東大理	27. 4.26-28	52	12	柿岡観測所	27. 10.4-6	61
13	東大天文地理調	28. 5.13-18	57	14	京大理	28. 10.30-11.1	43
15	東大理	29. 5.28-30	53	16	名大空電	29. 11.3-5	59
17	東大理	30. 5.6-9	68	18	東北大理	30. 10.28-30	56
19	科 研	31. 5.14-16	67	20	京大理	31. 10.16-18	58
21	東大理	32. 5.10-12	65	22	柿岡観測所	32. 10.9-11	56
23	東京理科大	33. 5.17-19	64	24	名大理	33. 10.24-26	64
25	東大理	34. 5.25-27	68	26	東北大理	34. 10.15-17	48
27	地理調査所	35. 5.16-18	75	28	京大理	35. 10.30-11.1	70
29	東大理	36. 5.4-6	70	30	福井大	36. 11.20-22	60
31	電波研	37. 5.24-26	67	32	柿岡観測所	37. 10.14-16	58
33	東大理	38. 5.13-15	71	34	名大空電研	38. 11.4-6	88
35	東大理	39. 5.27-30	88	36	東北大理	39. 10.17-19	87
37	理 研	40. 5.26-29	110	38	京大工	40. 11.3-6	111
39	東大理	41. 5.23-26	129	40	平磯電波観	41. 10.19-22	110
41	国土地理院	42. 5.10-13	137	42	大阪市大工	42. 10.29-11.1	130
43	東大震研	43. 5.25-28	123	44	東北大理	43. 10.30-11.2	114